

2020 年度キューピーみらいたまご財団事業計画書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

当財団の「食を取り巻く社会課題の解決をめざす食育活動を支援、助成する」という助成事業の公益性が評価され、キューピーみらいたまご財団は2019年3月に内閣府より公益財団としての認定を受けました。

2020年度の助成事業については、これまでの食育活動を支援するプログラムAと、「子どもの居場所づくり」を支援するプログラムBを中心にさらに深掘りし、こうした活動がされている団体の皆様同士の情報交換、交流の場づくりも増やして参ります。

尚、助成先については各地で財団の助成事業説明会を開催し、助成の周知を図り、ホームページなどにて公募を行い、選考委員会にて決定します。

1. プログラムA 食育活動への助成

2019年4月に「第3次食育推進基本計画フォローアップ中間取りまとめ」が発表されました。そのなかでは、2020年からの「第4次基本計画」作成に向けて、「SDGsと連携した食育の取組み」「一人の人間のライフステージで継続的な食育が行なわれているかという視点での検証の重要性」等があげられており、これらはキューピーグループが掲げるサステナビリティ目標の「健康寿命延伸への貢献」「子どもの心と体の健康支援」につながるものです。

今年度も、財団では食育活動を行うための講座、イベント、研究等に必要な資金の一部を助成します。食育活動は保守的な食生活を見直す活動でもあり、1年間だけでなく、時間をかけて目標を到達していく活動もあるとの考えから、本年度より、「特定課題（健康寿命延伸のための食育）による3年継続助成」をプログラムに加えました。

(食育活動 取組みテーマ例)

生活習慣病予防など健康に配慮した食の普及／調理スキル向上／野菜の栽培や収穫などの農業体験／家庭や地域での共食／家庭や地域での食品ロス削減／農業従事者拡大など農業支援／食文化継承／食育コンテンツ開発／食育指導者の育成 等

2. プログラムB 食を通した居場所づくり支援 ～子どもの貧困対策への助成

ここでいう「貧困」とは、「経済面」だけでなく、「体験・交流」の乏しさから生まれる課題を意味しており、財団では今年もこれらの解決をめざした居場所づくり支援への助成を行います。

全国各地で急速に拡大する子どもの居場所づくり支援の活動はその主体や取り組み内容に以下のように様々な形と特徴があります。

(食の居場所の取り組み内容)

食育／親子・共食体験／多世代交流／学習支援／子どもの貧困／ネットワーク形成支援・啓発活動 等

この居場所の中心である「子ども食堂」の数は、前年の1.6倍の3,718カ所、小学校数（学校区）19,892に対する充足率も19%近く（以上2019年NPOむすびえ調査）まで上昇し、「貧困対策」だけでなく、地域コミュニケーションの場として認められつつあります。

プログラムBでは、子どもの心と身体の成長そして自立支援に向け、食の提供や料理・共食などの食の体験に積極的に取り組む「子ども食堂」などの団体の環境整備、備品購入、そして活動定着に向けたネットワーク形成へ助成を行います。

また、子ども食堂を開始して1年以内の活動団体に、立ち上げ時の食材や人件費などの運営費用を含めて助成する「スタートアップ助成」は、現場の状況に合わせた形で、今年度も継続して参ります。

3. 食を通した居場所づくり活動を推進するセミナーの開催

急速に拡大する子ども食堂などの定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーや助成説明会を東京と全国数カ所で開催します。

●当年度助成計画

- ・公募期間 2019年10月25日～2019年12月5日
- ・助成対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・助成金総額 3000万円

●2020年度収支予算書 別紙